

性質の因果説と実現関係

海田大輔 (Daisuke Kaida)

関西大学

心的性質は、複数の物理的性質によって多重的に実現(realize)され得るように思われる。この多重実現可能性の直観を適切な実現関係の理論によってうまく説明することができれば、物理的性質から区別された真正の心的性質の存在を物理主義の枠内で確保することができそうである。本発表では、S. Shoemaker による実現関係の理論を、考えられるいくつかの反論から擁護することを試みる。そのことを通して、非還元的物理主義のひとつの可能性を探ってみたい。

心的性質の多重実現可能性の説明には原理的な困難が存在することが指摘されてきた。心的性質(すべてではないにしても多くの)はその因果的役割によって特徴づけられると考えられるが、心的性質を「ある因果的役割を果たすような一階の物理的性質を持つという性質」のように高階の性質として定義すると、心的性質が選言的になり、投射不可能になるおそれがある。さらに、物理主義を前提するなら、心的因果のすべてのケースにおいて複数の(互いに独立の)原因が結果を過剰決定することを受け入れるか、あるいは心的性質が余分であることを受け入れるかせざるを得ない、というジレンマに陥ることになる。何人かの哲学者は、心的性質を高階の性質と考えることをやめて、それを種ごとに相対化する道をとる。しかしこの立場では、物理的性質と区別された心的性質は存在しないことになる。心的性質はもはや真正の性質としての存在論的身分を持たず、「概念」にすぎないことになってしまう。

以上の状況は、性質をそれ以上分析することのできない単位とみなす限り、避けることができないと考えられる。Shoemaker は、実現者である物理的性質の「構成要素」に着目することにより、この状況を打開しようとする。物理的性質を因果的力の集合ととらえ、その部分集合が心的性質に対応すると考えるのである。実現される心的性質と実現する物理的性質は、いわば部分と全体の関係(正確には「内包的」部分全体関係)にあることになり、したがって、過剰決定という問題は生じない。また選言性の問題も生じない。もっとも、部分としての心的性質が原因として余分でないことを言うためには、何らかの議論が必要である。Shoemaker はここで、「原因は結果につり合っていないなければならない」(つり合いの原理)という Yablo のアイデアに依拠することになる。

Shoemaker の解決案に対して、McLaughlin は次のような反論を提出する。Shoemaker が依拠するつり合いの原理において本質的な役割を果たしているのは、じつは物理的性質と心的性質の間の実現関係ではなくて、両者の間の含意関係である。ところが、Shoemaker の実現関係の定義では、物理的性質が心的性質を含意することは保証できない。なぜなら、前向きの(forward-looking)因果的力の集合にかんしては、

心的性質に対応するそれは物理的性質に対応するその部分集合になっているが、後ろ向きの(backward-looking)因果的力の集合にかんしては包含関係が逆になるからである。したがって、Shoemaker 案によって心的性質に因果的効力を持たせることはできない。

この反論に対して、おおむね以下のような方向で答えたいと考えている。まず、性質の個別化にさいしては、後ろ向きの因果的力は本質的な役割を果たさないと考えるべき理由がある。二つの性質が前向きの因果的力を完全に共有するにもかかわらず、後ろ向きの因果的力について異なるという事態は、同一の性質が異なった経路で例化されたと考えるべきではなからうか。また、潜在的な因果的力も含めて考えた場合、前向きの因果的力を完全に共有する二つの性質は、後ろ向きの因果的力についてもやはり完全に共有することになるのではないだろうか。さらに、つり合いの原理によって心的性質の因果的効力の有無を判定するさいに考慮されるべきなのは、性質の前向きの因果的力のみであると考えられる。したがって、Shoemaker の実現関係の理論は必要とされる含意関係を保証するものになっている。それはまた、「なぜ含意関係が成り立つのか」ということに対する説明を与えることにもなっており、Yablo 案に実質的な内容を付け加えていると評価することができるのである。

References

- McLaughlin, B.P. (2007). Mental causation and Shoemaker-realization. *Erkenntnis* 67: 149-72.
- Shoemaker, S. (1980). Causality and properties. In Van Inwagen ed. *Time and Cause*. D. Reidel Publishing Co.: 109-35.
- Shoemaker, S. (1998). Causal and metaphysical necessity. *Pacific Philosophical Quarterly* 79: 59-77.
- Shoemaker, S. (2001). Realization and mental causation. in Gillett and Loewer eds. *Physicalism and Its Discontents*. Cambridge University Press: 74-98.
- Shoemaker, S. (2007). *Physical Realization*. Oxford University Press.
- Yablo, S. (1992). Mental causation. *Philosophical Review* 101: 245-80.